
ポケモンレンジャ〜 × 仮面ライダーVS悪党 〜みんなの戦い〜

城戸 輝零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケモンレンジャー×仮面ライダーVS悪党 ～みんなの戦い～

【Nコード】

N8153P

【作者名】

城戸 輝零

【あらすじ】

私、奈緒 通称ナオポケモンレンジャーです。

とうぞくたちがいると聞き、洞窟へ行って、倒し終わると『母がロケット団にさらわれた、助けて』と言って、私に助けを求めてきたミサトという女の子のこと一緒に、旅をする、冒険物語です
頭注で、仮面ライダーも出てきます

洞穴へ・レンジャー

私は、奈緒^{ナオ}ポケモンの力を借りて、敵を倒すのだ

今日の仕事は、盗賊にさらわれた、子供たちを、洞穴へ行って助ける仕事です。！！！！

なので、今から、洞穴へ行きます

ナオ『ルカリオ！！早く洞穴へ行こうよ！！！！子供達が』

.....

了解！！！！！！！！

洞穴.....

子供『助けて』

子供1『いや〜離して〜 変態〜』

盗賊『うるさい、レンジャーが来てしまつたろ』

子供2『ポケモンレンジャー来て〜』

一応、こんなことは、めったにありません

3分後.....！！

ナオ『こんにちはは、盗賊さんとやら……………!』

盗賊『馬鹿にしゃがって……………!』

行くか??? ナオ?

行っていいよ!!

はどうだん

ドツカ〜ン

盗賊『逃げろ〜』

ナオ『子供達!!! お家に帰りなさい』

子供1『わ……………い』

早く逃げてよ、……………! ちよつと
イラつくな〜

あつ! ー! まだ、敵がいるし〜、倒すつきゃないっしょ……………!

ナオ『レッツ……………!』

ゴ〜 ルカリオは、向かってきた敵のポケモンを華麗によけて
いた

ルカリオ!!! どうだん……………!

ドツカ~~~~~ン

ナオも、波動できるようになったな!!!、それに、今回、指示よかったと思うよ、でも、もうちょっと、考えて行動しないと、駄目かもな

ふーん!!!!!!でも、ルカリオも強くなったよね!!!!

ミサト『あの!お母さんがロケット団に捕まったの!!!!助けて!!!!!!』

ナオ『それは、いいけど、あなたの名前は??』

ミサト『私は、ミサト(実里!)助けて!!!!!!お願いポケモンレンジャーさん』

ってか、何で私???他にも、ポケモンレンジャーは、いるでしょ、でも、いまは、私しか居ないからな、だからいつか

ナオ『分かった!!!!!!じゃあ、ポケモンのセンターに行こう』

ポケモンセンターとは、ポケモンレンジャーが住んでいるところ、など、ポケモンレンジャーの特訓場所などが、完備されているところである!!!!!!

ポケモンの体調管理をする場所でもある

ナオの部屋.....

ナオ『このベット2つあるから、1つは、明日まで自由に使っているよ……!、あと、冷蔵庫から、材料とって、料理してもいいからね』

ミサト『フアーイ』

ミサト『眠いから、お休み〜』

明日は、旅立つ日なので、ミサトは、寝てしまったとを

あと、捕まって、疲れたのでしよう……!……!……!

ミサトの行っていることは本当で、ミサトのお母さんは、本当に捕まっていたのであった。

旅立ち・・・(前書き)

よろしく願います

旅立ち・・・

朝・・・・・・・・・・

ナオ『レンジャーの証も、持っただし！、手にするやつも持っただし、金貨も持ったから、大丈夫だよね』

『の
ミサト『あの！、ギンガ団の本部に、いるってメールが前に来た』

ナオ『分かった、ここから、約9里（36km）の所にある、ギンガ団本部にいきましょうか！！』

ってか、ポケモンレンジャーって、物知りなんだな〜

ミサト『レッツゴー』

ナオ『受付してこなきゃ、ミサंगाちゃん、待っていてね』

わたし、ミサंगाじゃなくて、ミ・サ・トですけど！！！！
—
応、助けてくれた、人だし！、お母さんを助けてくれる人だもの！
！！、まあいつか！

3分後・・・

ナオ『ごめんね〜ミサंगाちゃん〜』

ミサト『・・・・・・・・・・』

10分後……

ミサト『疲れた〜、だって、ここまで、ず〜〜〜〜〜〜〜〜』
〜〜〜と、歩きっぱなしだよ〜』

ナオ『早くない?????あっ!?!?!いいところに、ポニータが
いるから、乗せてもらおうか!』

<キャプチャー・オン>

ミサト『ありがとう、ナオさん!?!?!ポニータもね〜』

ナオ『ナオでいいよ、私だって、ミサトって、呼び捨てにしてい
るんだから』

は〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜い

ナオ!?!何か来るぞ!?!!

ナオ『ほへ?????』

敵が来るかもしれないんだぞ!?!?!しっかりしろ!?!!

本当に大丈夫なのか?????????????

ナオ『正気だけど?????』

それならいい

ミサト『何話しているのかわからないよ』

ナオ『まあ、普通の人は、分からないに決まっているじゃん!!
!、はどうで話しているんだから』

それ、はどん???

ガサ

ナオ『!..?』

敵 現れたり

ナオ『ミサトは、下がっていて!!!!』

ロケット団『その子を渡せ!!!!』

ナオ『いやだよ、べくだ』

あれ????反応無し????やりすぎたかな???

ロケット団『行け!!!!、ガブリアス』

ルカリオ!!、この、天井の隙間に隠れていなさい

はいはい!!!

ロケット団『ガブリアス!!!!かえんほうしゃ!!』

ドッカーン

ルカリオ、私は、いいから、ミサトに何かあったら、守ってあげてね

分かった!!!

ロケット団『お前には、ポケモンが居ないのか????、』

ナオ『居るよ!!!!、行け!!!!リーフィア』

えつと〜何にしようかな〜、技

ロケット団『そんな弱いポケモン、ガブリアスや、私になどには、効かない〜、あっはっはっはっは』

ナオ『今よ〜、リーフィア、はっぱカッター』

攻撃は、あたり……………

ナオ『さっきの、偉そうな口は、一体どうしたのかな??.?』

さ〜て、どうするのかな??.??.??

ロケット団『今からだ!ガブリアス!かえんぐるま』

ルカリオ、うえから、はどつだん

ドツカーン

ロケット団『これでおしまい〜、って、はどつだん??.??.?どこから??.??.?きいていないよ〜』

ナオ『リーフィア戻れ!!!!、ってか、ルカリオが、上に隠れていたの知らなかったの?』

ルカリオ!!!来て

タッ！

ロケット団『ル、ルカ、ルカリオが、いたら、勝ち目があるわけ
ないでしょ』

???

ロケット団『さっきの言葉、取り消し　取り消し』

ミサト『さっさと帰りなさい』

で、出ちゃ駄目でしょ!!!

ロケット団『勝ち目がないので、帰ります』

えっ!!!、ミサトを連れ去りたいんじゃない

ジジ………（無線）

『ギンガ団のBB、目的は、^{ミサト}捕まえたか???』

ロケット団『今からっすね』

忘れていなかったんだ………

ミサト『ゴンベ!!!舌でな・め・る』

ロケット『気持ち悪いな　もう』

それは、そうでしょ!!!』舌『なんだから

ナオ』しっしっしっ!!--!!--帰りなさい』

キユ〜キユ〜

ミサト』あっけなく帰っちゃったね』

ナオ』ギンガ団は、弱虫なんですよ』

仲間???

ナオ『こんなことしている暇はない!!!先へ急ぐよミサト』

ミサト『うん?????』

ルカリオ何かポケモンが居る!!!!!!

この波動は確か、伝説ポケモンだな、で、ファイヤーか、ダークライだろう

分かった、ありがとう

ナオ『ミサト、あれなんだ分かる???』

ミサト『火????』

そうでしょそうでしょ、それが、普通なもの

ナオ『下がっていてね』

<キャプチャー・オン>

ファイヤ『~~~~~』

何すればいいんだ?だって

ちょっと、この子の母親を助けるのに、力をかしていただきたい
と言って!

ルカリオ『~~~~~』

そんな事、お安い御用だつて

ナオ『ファイヤーは、このモンスターボールに入つてね、仲間も増えた事だし、先へ、レッツ！』

ミサト『ホニヤララ』

????????????

ナオ『それ、何か違う』

ミサト『はい????レッシュムー』

ああ、言おうと思ったのに、ミサトひどいよ~~~~~!!

まあ、いつか~~~~~!!

ミサトだし~~~~~!!

仲間だし~~~~~!!

グレイシアに??

サト『ナオ！平和だね〜でも、平和が1番かもね〜〜〜このごろ敵現れないし』

ナオ『警戒しているかもよ!!!』

ミサト『そうなのか〜初めて知った』

ものしり〜ものしり〜

ナオ『てかさ〜このごろ、私のポケモン、進化していないんだけ
びさ〜』

超ギヤル風

ミサト『それは、あなたの　　が、悪いから〜』

それ言うなこら〜

リーファイア『リーリー!!!』

えっと、頭が痛いって???マジで

ミサト『あれ?リーファイアの体が、光に包まれていくよ』

リーファイア!!!大丈夫かな?????

ナオ『大丈夫………夫　　リーファイア』

リーフィアは、もう進化しないのに、グレイシアに、なっていた。
.....

ミサト『リーフィアが、グレイシアに』

おっかし〜

この現象は、900万匹に、1体の特殊なポケモンがいて、それが、このリーフィアあつ今は、グレイシアなんだと思う

ルカリオも、ものしりじゃんか!!!!!!

グレイシア『レイレイレイレイれいれいれいれいれいれい』

えっと、通訳すると

私、今、リーフィアだよね!!!!!!そうだよね!!!!!!

ちやうちやう、あんたは、今リーフィアではなくて、グレイシアだからね!

.....

生年月日 11月23日

身長130cm位かな

体重25kg前後

趣味

ポケモンたちと絵を描くこと・散歩しながら、ゆっくりとする事

薬草で、お薬を作る事

もっているポケモン

1、ゴンベ 2、プラスル 3、マイナン 4、ジュプトル 5、
バシャーモ

などなど、また、増える可能性もあります

2人の髪の色と、目の色は????(質問です。)

ナオ

髪の色

金髪

目の色

水色

ミサト

髪の色

茶色

目の色

ピンク

でした！！！！！！！

！！！！

あと7里

ミサト『あそこに、コンベニがあるよ、行ってみようよ!!--!!--!』

ナオ『我慢しなさい!!--!!--!お母さんを助けるのでしよう!!--!』

えゝゝゝゝっつか、あと、何キロ歩けば、いいの???

ミサト『あと、どのくらいでつくの???'?』

ナオ『あと、約28km!あの山と、もうひとつ向こう側の小山をこれたくらいが、ロケット団本部があるよ』

ミサト『めんどくさい!!--!!--!じゃあ、ゴンベ!!--!遊ば!!--!』

遊ばないほうが.....

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ.....

ミサト『地響きだ、ナンのらうね、この音』

ナオ『ロケット団だ!、隠れよう!!--!ルカリオもおいで』

分かった、しかし、いや、待て、なにかが起こりそうな気配がある

何が???

戦いだ、私の仲間ルカリオたちが、必死にロケット団と戦って

いるらしい

じゃあ、助けなきや

私は、いいマスターを持った

ナオ『ミサト、ちょっと行ってくるから、グレイシアをもって、隠れていてね、何かあったら、グレイシアで、戦うのよ!!!!』

ミサト『ここで、待ってればいいのよね』

ナオ『そっだよ』

(^ ^)

ルカリオいくよ

乗れ!!!!

無理!!!!

ミサト『れっつて』

この合図とともに、走って行ってしまった

ルカリオ『やめろ、怪我をさせるな』

ナオ『ルカリオ!!!!はどつだん』

ドッカーン

ろけつと団『レンジャーか、まとめて、退治してやるわ』

ナオ『さあ、それが、できるかな???』

行け!!!ルギア

ロケット団『ル、ルギア、行け!!!カイオーガ』

えっ!!!カイオーガ?あの伝説の

ルギア!エアロブラスト

ドッカーン

この攻撃は、カイオーガの胸に当たった

ロケット団『カイオーガ、うずしお!!!』

ルギア『ウエザーボール!』

空が、雲で覆われて、雨になってしまった

ナオ『ミ~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~』

ミサト『!?!?』

ミサトは、微かに聞こえたナオの声をちょっと聞いていた

ナオ『み〜〜〜〜〜〜〜〜』

ミサト『聞こえた、ナオが呼んでいる』

ルカリオ！ちょっと頼みがある

何でも言っつて

ルギアに、伝えてほしい事が・・・

早く、敵が来ちゃう

伝えて、ミサトのところに行くよ

ラジャー

分かった、あとで、

といって、ルカリオは、ルギアの元へと向かった

ミサト『大丈夫だった????』

ナオ『それは、こっちの言葉だよ』

ミサトも無事だ

ルカリオと、ルギアが、帰ってきた

ルギアは、ロケット団を少し倒したといっていたけどね!!!!!!

あらすじ劇場&おまけ

あらすじ劇場

いままでのあらすじ

ポケモンの力を借り、敵と戦ったり、人助けをしたりする毎日

その毎日は、あまり楽しくなかった……

ところがある日、連れ去られた、子どもを救うべくどつくつへと行き、子どもを連れ去った、とうぞくと戦った

その後、とつぜん、連れ去られた、女の子の1人に声をかけられて、

『母を助けてほしい』

と言われた……ポケモンレンジャーは、敵と戦ったり、人助けをしたりする仕事なので、その女の子のお母さんを一緒に助けに行くことに……!!

~~~~~

ちょっと、この話が、寂しいので、おまけの会話をしたいと思います。

作者『今回の議題は、『1人ずつ、願い事と、理由』なので、願い事を言ってください』

ナオ『私からね』

それしか、ないでしょ

ナオ『私は、新しい、ポケモンの力を借りて、世界中のいろいろな人を苦しめる、敵と戦い、この世の中を！平和にしたいな〜』

はいはい、その前に、お勉強しなくちゃね!!!!!!!!!!

次は、ミサト

ミサト『私は、このあたりに住んでいる、ミミロップをつかまえて、つかまえたミミロップと一緒に、はやく、お母さんを助けたいな〜、ミミロップは、動作が速いって言う噂だし!!!!素早いって言う噂も聞いた事あるし!!!!ね』

そうか、つかまえられるといいね〜

作『最後は、僕!!!!!!』

.....

作『私は、1日、24時間だから、魔法とか使って、1日36時間にしてほしいな〜だって、小説を書く時間がないんだもの!!!!!!  
!!!!!!!!!!!!!!』

.....

みんな無視かよ

作『まあいい、それぞれの、願い事は、分かった、そのために、各自がんばるよつに……!!僕のは、多分出来ないけどね』

熱だ!!!

ミサト『ナオ！ 寒いけど、ナオ寒くない??それに、頭が熱い気がする』

ナオ『どれどれ???仮病じゃないよね、あっ!!!熱い』

どうしよう

ナオ『宿に行つて、看病しなきゃ 駄目だね!!!』

ミサト『むり~~~~体力が~~~~』

フラッ

ナオ『みさき!!!!!!』

(岬という意味です)

ルカリオ、ミサト運べるポケモンいるっけ??

スイクンなら、運べるんじゃないか???

そうか、ありがとう

スイクン運んで!!!

宿の人『いらっしやいませ~~~~どうぞ~~~~』

ナオ『あの、熱の人がいるんですがいいですか??』

ためらわず

宿の人『はい!!!どうぞ~~~~』

たんぽぽ(この部屋の名前)

ガラッ

ドサッ

ナオ『ミサ大丈夫か???だるいか???』

ミサト『?.....』

あのミサトが、おしゃべりのみさんが、喋っていない

ミサト『私の名前は、ミカんだ~~~~』

!??

名前が変になっている

ナオ『おお、喋った.....グレイシアが、もうちょっとで、  
氷を作ってきてくれるから、待っていてね』

コクン

外.....

グレイシア『レ〜〜〜〜〜〜〜〜〜イ』

お店の人1『氷が出来たから、私、もって行きませすね』

お店の人2『もう一回、グレイシアちゃん作ってね』

コクリとうなづくと、すぐに、技を出す準備をしていた

グレイシア『れ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜い』

氷が出来た

お店の人2『ありがとうね、ってか、グレイシアちゃん!!!!!!  
偉いわね〜ご主人様のために、氷を作るなんて、もう、戻ってもい  
いわよ』

中・・・・・・・・

ナオ『グレイシア、お疲れ様〜〜』

ミサト『ナオ!!!!グレイシアが作った、氷口に入れてくれる?  
??.?』

ナオ『ほいっとな』

パクッ

ナオ『美味いか?????』

ひんやり〜

ミサト『ひんやりしていて、美味しい!!!!!!これをいれた、ジュースが飲みたい』

!?!?

ミサト『今の事、通訳して』

ラジャ〜

グレイシア!!!!、美味いって

!!!!!!!

## 山越え

ナオ『ミクロの熱も下がったことだし』

ミサト『ミクロじゃないってば〜〜私の名前はミ・サ・ト』

そんな事知っているけど、面白いんだもん

ナオ『ミシンあるくぞー!!--!!--!』

ミサト『だから〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜』

山に登るにつれて

口数もすくなく

とつとつ、喋らなくなりました

し〜〜〜〜ん!

山の頂上……………

ナオ『ここ気持ちい!!--!!--!、空気が美味しい!!--!!--!』

ミサト『そうだね!!--!!--!ナツ』

真似したな〜〜このやる〜〜〜〜

ナオ『何だよ!!--!!--!ミツ・マングローブのくせして!!--!!--!』

ミサト『私、おかまじゃないよ〜〜』

ぷっぷっぷっぷ

面白い!!--!

下山………

ナオ『下山は、登山と違って、らくだね〜』

ミサト『そうだね〜、でも、以外に関節が痛くなっちゃったよ』

年寄りなの???ミサトって

30分後……

下山終了

## 波動

ナオ『ミサンガ！！ここが、みさきタウンか、自然豊かで、古い建物と見事に調和して、いい街だな』

ミサト『もう、ミカンでも、ミサンガ、ミシンでも、いいよ！！  
！つつこむのがめんどくさいし、』

ナオ『はい????』

ミサト『自分でも、言っていた事も分からなくなってしまったの????』

そんな事知っている、でも、ルカリオ！！この町に、伝説のポケモンが、いる気がする！！！！

ナオに言ったとおり、みさきタウンには、エンティなどの気配がある

ミサト『私も、波動をつかえるようになりたい！！！今、ポケモンがどういう気持ちなのか分かるじゃん』

ナオ『気を集中させ、話したいポケモンに、一心をかたむければ、ポケモンたちの声が聞こえてくるはずだよ』

ミサト『そういうことだったのか』

ルカリオは、最初ッから、『はどう』を使っていたよね！！！！

ルカリオという種類は、昔から、『はどろ』を使える種類だから、その子孫は、つかえるんだよ!!

へえ〜

ナオ『じゃあ、私が、ゴンベに問いかけて、好きな食べ物を言っ  
ていてもらうから、聞き取ってごらん』

僕の好きな食べ物は、クワンの実だ

ミサト『分かった!!!!!!ゴンベの好きな、食べ物は、サクラン  
ボだ』

ナオ『違うよ!!!!!!ゴンベにもう一度聞いてみてごらん??』

...

ミサト『苺でしょ』

ナオ『××!!!!!!クワンの実だって』

ミサト『なんで、私の意見に合わせないんだよ~~~~』

こりゃ、駄目だ、絶対に波動は、使えないな!!!!

伝説のポケモン参上!

ナオ『????変な気配を感じる!!!!ルカリオは???』

私も感じる、???伝説のポケモンがこっちにくる

ナオ『えっ?今?』

そつだ、あと、30秒・・・25秒・・・20秒・・・  
15秒・・・10秒・・・

エンティ『ガオ~~~~???あれ?ポケモンレンジャー?』

ミサト『私は違うけれど、この人は、正真正銘の、ポケモンレン  
ジャーだよ』

エンティ『ポケモンレンジャーと聞いて、お願いがあるんだが、  
聞いてくれないかいな???』

あれ???関西弁??

いいけど!!!

エンティ『お前は、波動が使えるのか!!!!!!!すごい!!!尊敬し  
たぞ』

ありがとね!!!エンティ!!!!私、ナオ!!!!!!この子は、ミサ  
トよろしくね!!!

エンティ『はいはい』

!!!!

エンティ『それで、続きなんだけど、あの山を越えた、アラモスタウンのロケット団本部に連れて行ってほしいのだが……』

今から、私たちも、アラモスタウンに行くので、エンティも、一緒に行こうか!!!!!!!!!!!!なのだ

Yes!!

エンティ『一緒にいく』

仲間が少々増えたな!!

うん!ロケット団たちに立ち向かうんだもん

まあ後で、説得してみようか

よろしくね!!ルー

ルーとは、ルカリオのあだ名

他には、ルカー、ルーちゃん、リオン

伝説のポケモン参上！（後書き）

読んでくれて、ありがとうございます！

エンティは、力持ち

ナオ『この荷物重い!!!』

私が持つ

いって、ルカリオ

そして、ルカリオがナオの持っていた荷物を持った瞬間

ドッシーン

ルカリオは、荷物の下敷きに……

ミサト『ルカリオ大丈夫?』

エンティ『仕方ない、私の背中に乗せて運ぼう!!!』

エンティは、普通に荷物をを持ち上げ背中に乗せてくれた

ラッキー

ナオ『ルカリオおきて!!!』

気絶しているのかな?

ルカリオ『むにゃむにゃ、……ミサンは、大食いなのだ、しかし、ナオは、ミサンと違って、立派なマスターだ』

.....

ミサト『あのね、私は大食いじゃなくて、いっぱい頼んでいるけど、それには、それなりのわけがあるんです』

しーん

ナオ『それで?』

ガクッ

聞いていたんかい!!!!!そしたら、いましらけたのは、私の勘違い???でも、確かに・・・しらけたような・・・

ミサト『ごんちゃん=ゴンベがいっぱい食べるから、私も仕方なく頼んであげてあげているだけなんだもの!!!!!』

しーん

ピクッ!!

ナオ『あつ!!!ルカリオが起きた~~~~よかった!!!死んでなかった!!!』

それは、考えすぎだと思っが・・・

はいはい

やっぱり聞いていなかったんだ!!!ひっど

## 山登り！

ナオ『この山を越えれば、ロケット団の本部がある、アラモスタウンに着くよ！！！！』

へえ〜このでっかい山を越えたら、お母さんのいるところにつくんだ〜

(山こえとは違って、ちゃんと会話を入れます)

ミサト『あと何里でつくの？？？』

ナオ『多分、あと、3里ぐらいかしら！！』

えっと、3×4＝12で、あと、12kmか〜、まだまだ、道のりは長いな〜

ミサト『でも、やっぱりエンティって、力持ちだね〜、私の力じゃビクともしないのに、エンティは、背中に乗せているんだもの！！』

・・・

ナオ『そろそろ、休憩する？？？私結構疲れたかもしれない』

10分後・・・

ミサト『コンベー！！！！私を背中に乗せて、運んで』

プイ!!

ミサト『失礼な!!! 私は、あなたが思っているほど体重は重くないんだからね!!!!!! 勘違いしないでよ』

プイ!!

まただ、ゴンベきげんが悪いのかな

ナオ『ルカリオ!!!!、この先、道がないから、波動で、木とポケモンを見分けてちょうだい!』

Yes(了解)

ナオ『エンティ疲れていない?』

エンティ『少しな!!、でも、まだ大丈夫だ!!』

ナオ!!!!この先がけ崩れがある!!!!通り抜け出来ない!!!!

うん!!!ありがとう

ミサト『飛んで行きたいな』

!!良いこと思いついた!!

ナオ『エンティ!!!!1回モンスターボールに入っ!』

エンティ『君の言う事なら、何でも聞いてあげる!!』

ピコピコ！！（ポケモンがモンスターボールに入ったときの音）

ナオ『よし！！！！入った！！荷物も四次元空間に入れて！！』

ミサト『ふむふむ！！良い考え！！』

まあまあ、だな！！！！

ナオ『ルギア！！！！カモン！！！！』

ポン！

ルギア！！！！頂上まで、乗せて行って！！！！

うむ！！乗せてやっても良い！！

ルギアの背中に乗ること、約5分・・・・・・・・・・

ナオ『頂上に着いたよ！！！！ミサンガ』

だから、ミサンガじゃないって

ミサト『本当だ！！！！ルギア！！！！凄いよ！！！！』

ルギア様！見晴らしが良いですね！！

なぜ、急に『様』つけた、意味が私には分からない・・・・・・・・・・

のりですね

『...下サ』

ミサトが波動を？

ミサト『今、ルカリオさ〜！』のりです！』って言わなかった？  
王様級のポケモンにそれは、ないでしょ』

正解！一応私が言った！でも、ルギアに、許可を貰っているんだ  
！！！！

ミサト『へ？』はずれ？』っていった？』

ナオ『ミサト！ちよつとずつ、ポケモンたちの言葉が、分かって  
きたようだね！！よかった！！』

うん！

ナオ『うか！？ッて言った？』

ミサト『うんって言ったつもりだったんですけど〜』

・・・

ナオ『あのね〜！初心者は、よく間違える事があるから、頭の中  
で考えてから、強く思っつて、心の中で、言っつて、そうやれば、ちや  
んとポケモンたちや、波動の使える人に、伝えるようになるから』

そうなんだ〜

ミサト『ありがとう！！！！なつとつ！！！！』

！？まねしたな

ナオ『なつとうはないでしょ！！！このみりん！』

『ミ』があれば、何でも良いわけじゃないよ！！！

とめようがないな、この子供みたいだし、アホらしいし・・・D  
Yルカリオ！

ナオ『ルカリオ！、静かに！！』

ミサト『私は、ミサトだからね！！みりんでも、ミサンガでもないんだからね』

！！？

ナオ『フア~~~~~イ！』

ってか、すぐにおさまったじゃないか！！

そうだね！

寝る時はわくわく

宿・・・・・・・・・・・・・・・・

ナオ『寝るよ！！』

ミサト『お願い！！寝ないで！！！！』

・・・・

ナオ『ポケモン出せば良いじゃん！！』

！？

忘れてた！！

ミサト『マイナン・プラスル・ゴンちゃん！』

ゴンちゃん『プイ！！』

機嫌悪そう・・・・

ナオ『じゃあ、私もポケモンだそうか！！ルカリオ！グレイシア』  
『！』

ミサト『ゴンちゃん』

・・・・

ゴンちゃん！ミサトは、心配をしているんだよ！

だってさ〜このごろ、ミサト、違うポケモンばっか、相手しているし

単なる、やきもち

そうですか!!

ミサト『??.?.?』

ナオ『かくかく・しかじかで!』

このことを話した・

・

ミサト『ゴンちゃんごめんね!!--!』

いいよこちらこそ

うん!

すごい!ミサト波動できるようになったの?

ミサト『いまは』うん』しか分からないけど・・・』

何だ!そんなことかよ!一瞬、波動できるようになったんだ!つて思ったんだ!

ナオ『そんな事は、置いていて、みんなしりとり合戦やるぞ〜』

!??

全員『やった~~~~~ん』

順番どうしようか？

ナオ『順番は、私 ルカリオ グレイシア ゴンちゃん プラス  
ル マイナン ミサトね！っていう順番で、よろしくお願い！』

ナオ『ルカリオ！』

ルカリオ『オーダー』

一応言っています。ミサトは、分からないので、ナオが通訳  
しています。

ルカリオ『オーダーは、ルカリオが、言う人？の名前で、オー  
ダイルは、しりとりの言葉です。』

グレイシア『ルンパツパ』

ゴンちゃん『パイナップル』

プラスル『ルビー』

マイナン『ビー玉』

ミサト『マルマインー！』

！？

ナオ『ミサト！』『ん』『ついちゃったね！』

あっけなかった Dylカリオ

もう一回やるつよ！つまないよ Dylゴンちゃん

ナオ『もう一回やるつ！じゃあ、リオル』

ルカリオ『ルイージ

グレイシア『時短テク

ゴンちゃん『クラゲ

プラスル『解毒剤

マイナン『イーバイ！

ミサト『イシツブテ！』

ナオ『テイクオフ！』

ルカリオ『フリーザ

グレイシア『座席

プラスル『金！

！？

ナオ『プラスル！』『ん』着いちゃったね！』

シユン

ナオ『でも、気にすんなってか、やっと終わってありがたいっ  
て感じ』

！！！！

ミサト『ナオとか、ルカリオとか、グレイシアとか、マイナンは、  
すごいね、一度も間違えなかった』

だって、いつもナオとかとやっているんだもの

しょうがないでしょ！

ナオ『ああ、楽しんだ！みんな！戻って！』

ヒユーン

ミサト『ありがと！戻って！』

・・・

ナオ『眠い！マジで！私が先に寝るから・・・』

ミサト『私も眠いから、ナオよりも、先に寝るからね』

こっちが先だから！





!!!!!!

会社の人『家賃!3万にします』

!?

ナオ『ありがとう!その家賃してもらっよ!』

!!!!

会社の人『ありがとうございます。』

プチ!

何とか、安くしてもらった!!でも、7万も安くしてくれるなんて、凄いや!2万ぐらいでよかったのに……

得だから!いいか!

後日……

ナオ『ここが、新しい家?』

!!

ミサト『スツゲ』

ナオ『新しい家兼あなたのお母さんを救うための秘密基地とする  
!!!!!!そうだ、この地図を見てくれ……』



ミサト『本当に、お母さんがいるの？』

コクリとうなずく・・・

ナオ『本当だから！情報屋をなめんじやないよ』

喜ぶかな？

ミサト『やった〜。』

喜んだ！ってか、可愛いかも！調べがいがあったな・・・

ナオ『そうだ、ロケット団には、位があつて、『A、B、C、D、E、F、G』に分かれている！』

??

ナオ『説明すると！Aは、位が一番上で、上官や、指揮官などがいる（4人程度）

Bは、CDたちをまとめる〓部長的な役割！（7人くらい）

CDたちは、戦うことを専門とする位（50人程度）

Eは、ポケモンを研究したり、世話をしたりする位（10人程度）

Fは、受付などを管理したり、無線をつなげたりするひとがいる位（3人程度）というふうに、分かれている』

長かつた〜〜

ミサト『長かったね！疲れたでしょ！』

ナオ『あたりまえよ！人間なんだから！口の中が枯れ枯れよ』

！？

ミサト『ナオがおっさんになった！』

どろじょろ！あーしよろ！！

そういつているうちに、何がなんだか忘れてしまった、ミサトで  
あった



!!!!!!

会社の人『家賃！3万にします』

！？

ナオ『ありがとう！その家賃してもらっよ！』

!!!!!!

会社の人『ありがとうございます。』

プチ！

何とか、安くしてもらった！！でも、7万も安くしてくれるなんて、凄いや！2万ぐらいでよかったのに……

得だから！いいか！

後日……

ナオ『ここが、新しい家？』

！！

ミサト『スツゲ〜』

ナオ『新しい家兼あなたのお母さんを救うための秘密基地とする  
!!!!!!そうだ、この地図を見てくれ……』



ミサト『本当に、お母さんがいるの?』

コクリとうなずく……

ナオ『本当だから!情報屋をなめんじやないよ』

喜ぶかな?

ミサト『やった。』

喜んだ!つてか、可愛いかも!調べがいがあったな……

ナオ『そうだ、ロケット団には、位があつて、『A、B、C、D、E、F、G』に分かれている!』

??

ナオ『説明すると!Aは、位が一番上で、上官や、指揮官などがいる(4人程度)』

Bは、CDたちをまとめる!!部長的な役割!(7人くらい)』

CDたちは、戦うことを専門とする位(50人程度)』

Eは、ポケモンを研究したり、世話をしたりする位(10人程度)』

Fは、受付などを管理したり、無線をつなげたりするひとがいる位(3人程度)』というふうに、分かれている』

長かつた~~~~

ミサト『長かったね！疲れたでしょ！』

ナオ『あたりまえよ！人間なんだから！口の中が枯れ枯れよ』

！？

ミサト『ナオがおっさんになった！』

どっしりよづー！あーしよづー！！

そういつているうちに、何がなんだか忘れてしまった、ミサトで  
あった

## あらすじ劇場

作『はろ〜みなさんこんにちは！作者です』

ナオ『今回この19話は、あらすじ劇場として、お送りします』

!!!

作『そんな話聞いてないけど!!!勝手に言うな』

ナオ『今回だけ!ね!!!作者!』

そっといわれると・・・

ナオ『お願いします!』

.....

今回だけいいか!!!!!!

作『まあ、今回だけね〜では、あらすじ劇場始まりたいと思います』

~~~~~  
~~~~~

アラモスタウンに着いた、ナオとミサトその他のポケモンたちは、

情報やから、ロケット団の情報を集め、不動産会社から家を借りて、秘密基地を作った……

ロケット団がギンガ団にいると信じていたミサト

で情報やから、情報を集めて、居場所が分かった

ミサトの母は、ロケット団本部の9階の915号室にすることが分かり、ミサトはおおはしゃぎ！

そんな、ナオとミサトに忍び寄る黒いかげとは???

!?

~~~~~

作『小説を書くのって、以外に疲れるよね』

ナオ『マジ?!?!私も書いてみたいな』

うん!書かないほうが身のため?かもよ!

ミサト『私が、書くとしたら、プリキュアとかを題材にして、書いてみたいな』

そんな世代なのか

ナオ『ミサンガ!、アホじゃないんだから、プリキュアは、やめなさい!見ているこっちが恥かしいんだから!』

そんなことないもんね〜

作『そういえば、915号室に。ミサトのお母さんがいることしてってんの?』

ミサト『ナオが教えてくれたよ』

・・・

ナオ『うん！情報屋に、金貨を払って（脅しながら）聞いてきたんだから！間違いないと思うけど・・・』

作『もし、情報屋が、たくらんでいるとしたら?』

ニヤニヤ

ミサト『作者ひどい！私のお母さんなんだよ』

!!!!

作者『まあね！私にも、母親いるし〜』

(^o^)

ナオ『そりゃあ、誰でもいるだろ！そうしなきゃ、誰も生まれてこないわ！それが、普通ってもんよ!〜』

頭いい〜って、本当の事言っただけかも・・・

ミサト『私は、頭いい？悪い？なああああ~~~~~』
~~~~~』

作『ナオ!?!』

コクリとつなずく・・・

作・ナオ『真実は、いつも1つ!?!』

あつ!?!もしや!頭いいって言うてくれるんじや.....

作・ナオ『答えは.....頭が.....』

『悪い』

???

『悪い』

えっ?

ミサト『ええええええええええええええええええ~~~~~』  
~~~~~』

本当です!?!!

ではっ

作戦会議

ナオ『えつと、まず関係者として入り口から、中へ入り915号室のお母さんを助け、上官たちと戦うという作戦はどう??』』

ミサト『まず、上官たちと戦わないの??』』

それだと体力がね〜それに……………

ナオ『その作戦で行くと、戦っている間に、お母さんを人質に取られたり、卑怯な真似をされるかもしれないから』』

ミサト『そうか……………じゃあ、助けても、とられはしないの??』』

こういう手があるのを教えてあげる…………

ナオ『それは、そうだけど、ひかりのかべで囲んで、お母さんを囲んでおけば、一安心!……………なのです』』

ミサト『それも、そうだね!…………!』』

でもな〜、まだまだ、油断できないから

何か来る!…!

マジで??…こんな時に…………

ナオ『ルカリオ!…!行くよ!…!。』』

うん！水タイプのポケモンが来る・・・

ドッカーーン

！？

?? 『出て来い！！ポケモンレンジャー』

ナオ 『何の真似かしらね・・・』

ミサトは、どうしようか・・・

・・・

?? 『いいから、出て来い！アホ！野郎！！！！』

ミサト 『ナオ！！！！』

ナオ 『ミサトは、隠れていて！！！！』

ルカリオは、今のうちにモンスターボールに戻り、そのモンスターボールは、ナオが、ちゃんと持っていた！！のだ

ナオ 『ミサトは、私が連れていかれたら、出てきてね！！！！』

！？

ポイ

！？

グレイシアを投げた音

持っていてというように、投げたのであった

ミサトは押入れにこもって、グレイシアを持っていた。

連行！！

ナオ『何するの！！！！』

??『ギンガ団本部だここは、ちょっと聞きたい事があるから、少し待っている！！！！』

ここは、少し窓と、空気ごうのみ！！！！でも、ポケモンを出せるには、ちょうど良いかもしれない・・・だから、出すしかないか・・・

ナオ『ルカリオ！！行け！！』

窓の外へ、ルカリオを放り出した

ナオ『コトブキシティに行って、ナナカモド博士から、頼んでいた、ディアルガとアルセウスとパルキアを貰ってきてちょうだい！！！！』

承知した

と波動で伝えて、ルカリオは、コトブキシティに行った

10分後・・・

ガラッ！！！！

！？

この人は、えっ!?

マリア『マリアよ!!--!--よろしく!、ギンガ団の上官です』

ナオ『あ、あなたは・・・・・・ミシユラスシティの総理の秘書だった、マリア・ウインヌだね・・・』

マリア『正解!!--!あんな、きつい所、一ヶ月でやめたわ!!--!』

マジかよ

ナオ『以外に、辛抱ずよくないマリア』

話している間に5分が、すぎ・・・・・・

マリア『本題に、入るけど、ロケット団について、わたしたち、ギンガ団が調べているの』

ナオ『教えてほしいことでもあるんですか?』

・・・

マリア『そうですね!!--!あなたが、ロケット団について、調べていると聞いて!!--!あっ!!--!部下が、あなたに乱暴をしてくれません!!--!少しでも、いいから教えてくれないかしら』

まあいいか、信じるのは、まだ早いけど

ナオ『条件つきで、いかがかしら?』

!?

マリア『条件とは、ナンでしょうか?』

ナオ『今、この場所には居ないのですが、ミサトという子が、居まして、その子のお母さんが、ロケット団に捕まっているのです。』

そのお母さんを一緒に助けてもらうというのが、私からの条件です』

!?

それだけの事が……

マリア『ちょっと待ってね!!!!』

(コソコソコソコソ・うん)

マリア『私たち、ギンガ団は、あなたの条件を受け入れます』

!?

マジで?????

ギンガ団が、受け入れてくれるとは、思っても見なかった

マリア『昔は、なんの条件も、受け入れなかった、ギンガ団だも
の、驚くのも、当たり前だわね』

!?

私そんな顔になったかな??????

いや、そんなことより……

マリアの他に、上官がいない……これは、おかしい気がする

だって、私のマスターですから・・・

ナナカモド『そうだよな！！！！お前のマスターだもんな！！！！』

あ！！！！ナナカモド博士！！！！ちょっと訓練させてください！

ナナカモド『いいよ！！外でやって来い！！！！、昔を思い出すな
くくくリオルのときあんな事やっていたなくくでも、よく進化させた
ものだな』

ルカリオ・・・

はどうだと、みずのはどうの練習をしよう！！！！

はどうだん！！！！

ドッカーーン

ナナカモド『あぶない！！威力もましたな・・・』

すまない！！！！まあ、日々特訓しているから、

ナナカモド『そうか、そうか、練習して、強くなるんだぞ』

はい！！マスターやナナカモド博士のためにも・・・

ナナカモド『よいことを言うな！！！！』

いえ、たいしたことでは、ないと思いますが、博士・・・

ナナカモド『はやく、行かなければならないんじゃないかな?』

あっ!でも、……………マスターはギンガ団に

ルカリオ!聞こえる???

はい!…!マスター

やっと、聞こえたみたいですね!…!私は、ギンガ団に、少し口ケツト団のことを聞かれただけ!ナナカモド博士のところで、練習して帰っておいで!…!

はい!…!マスター

マスターと呼ぶなと聞いただろうが!…!

はい、ナオ!…!ミサトは大丈夫なのか?

大丈夫!…!安心して!…!

ってことで!…!あとで、かえっておいでね!…!

は……………い

ナナカモド『みずのはどうをやってみなさい!…!』

はい!…!

みずのはどう!…!

ナナカモド 『危ない！危ない！……でも、凄いで……！ル
カリオ

マリアの過去

一方ナオは・・・・・・・・・・

ナオ『話すけど、マリア・・・・・・・・あなたは、一体、何者なの？』

マリア『昔は、ただの貧乏人よ』

ナオ『あたなが、貧乏人????今は、全く見えないけど?????つてか、前は、お金持ちの家に生まれたって・・・・』

・・・・・・・・・・

マリア『私は、確かに、お金持ちの家に生まれたのよ!!!、でも、父の会社は、5歳でつぶれて、母の会社も10歳でつぶれた、多額の借金を、私に押し付けて、2人とも行方不明になってしまった、それから、人を信じられなくなった』

ナオ『1つ聞いていいかしら?借金つて、どのくらい?』

・・・・・・・・・・

マリア『今は、全部返してしまっただけど、今で言う、500億よ・・・・返すのに、10年はかかってしまっただけどね』

!?

500億????えっと、ポケモンセンターを10000個ぐらい買えるお金

.....あっ!!

ナオ『牢屋がとても多くて、捕まっている人が多い!!!!』

マリア『その人たちを、人質にとられたら、おしまいだね!!』

それもそうだ

ナオ『そうだね~~~~~』

マリア『どうしたの????気分でも、悪いの?』

.....

ナオ『気にしないでね!!!!悪くはないからね!!!!』

あらすじ劇場 ！

作者『あらすじ！！！！！』

ナオ・ミサト『劇場！！！！！』

.....

作者『勝手に私のセリフ言わないでよ』

ナオ『いいじゃん！！！少しくらい取ったっていいよね』

でもね~~~~~これは、わたしの小説なん
だから！！！

ミサト『そんな事は、置いていて、あらすじ劇場始めたいと思
います』

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

ナオたちに、忍び寄る影とは、ギンガ団の事であったが、ギン  
ガ団にナオは強制的に連行されてしまいます

ギンガ団たちは、『ロケット団を倒したい』という気持ちを知り、  
協力するのであった

.....  
この、コトブキシティのある一角で、空間がゆがんでいた.....  
.....

そこからは、ある、仮面ライダーが、出てきたのできたのであった

その仮面ライダーは.....なぜであるが

仮面ライダーは、ロケット団を倒すために、未来からやってきたのであった（未来のいつかは、不明である）

仮面ライダーと、ポケモンレンジャーナオとのコラボレーションをお楽しみに！！

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

作『やつと、次話で25話目、こないったことない私には、凄い事！！！！いつも、読んでくれてるみなさん、ありがとうございます！！！！
ます！！！！』

ナオ『特に、読者のみなさんのおかげだね、でも、一応祝っておくよ！！！！おめでと〜っ！！！！』

なんか、いやだな〜

『ミサト』おめでと〜っ！！！！

作『ミサト！！！！ありがとうね！！！！』

!?

ナオ『作者、ちょっと質問なんだけど、『仮面ライダー』ってあ
らすじ劇場に書いてあったけど、本当にくるわけ???』

.....

作『始まりは、いつも突然!!!』

無視するな~~~~~

作『』

!?

?

ミサト『オーズね!!!』

あつたり ~~~~~

ナオ『私は.....』

作『何の話ですか?ナオさん?????????????????????』

.....ムカつく!!!

ナオ『えっと、作者殴って良い?????答えは聞いてない????
か、いいの、わるいのどっちなの!!!』

作者『ってか、答え聞いているし!!ってか、殴っちゃ悪いし!!』

.....

ナオ『いい加減にしるや〜』

その拍子に、作者を殴った

作『ミサト! 助けて!! ナオに殴られて、体木に引っかけた!!』

おろおろ

ミサト『ゴンベ!! 木を舌でなめる!!』

ペロリン!!!

ドサツ

作『いつたい〜〜〜〜〜ミサト!!! 今、凄く揺れたよ!!! 落ちたら、あざできたし』

ミサト『しょぼーン』

ってか、自分でいうなよ!!! そこは、自分で考えて、だして、人に『大丈夫??』って、イワ列ようにすれば良いんじゃないの?

ナオ『あのさ〜作者?』

作『暴力さん!!』

.....

なにそれ~~~~~変なあだ名、気持ち悪いんだけど

作・ミサト 『ナオは、すこし.....なので、放っておきます!!』では

決行前夜？もしや、今日決行？

ナオ『ミサト！おきなさい！！朝だよ！』

?????

ミサト『ナオ！！おはようございます』

ナオ『マリアが来る！ミサトかくれていなさい！！わかった？絶対合図するまで、出てきてはいけないからね』

ミサト『わかったよ！！』

がらっ！！

マリア『おはよう！ナオ！明日ついに決行日ね・・・体調準備は良いかしら？で、ミサトちゃんはどこなの？姿が見えないようだけど・・・』

ナオ『ミサトは、スーパーマーケットへ買い物に行ったよ！それが、どうかしたの???』

マリア『別に！じゃなくて、あのスーパーマーケットは、ギンガ団が見張っている場所なのよ！！はやく行ったほうが良いわよ！』

それは、嘘だもん！！行っているわけないじゃん！！！！

ナオ『ミサトは、大丈夫！！ルカリオや、グレイシアをちゃん

と装備〓持たせてあるから結構大丈夫なのよ!』

.....

マリア『じゃあ、質問するけど、そこにいるルカリオはなんなの？
もしか、伝説のポケモンを2体持っているというわけじゃないわ
よね』

まあ、そうですね？問題でも？

ナオ『一応、言わせてもらうけど、私ルカリオ!2体持っている
のよ!知らなかったの?で、私が、スパーマーケットがギンガ
団が見張っている場所だと知っていないとでも言うわけ?歩毛門レ
ンジャーなんですけど』

.....

マリア『ちよつと、調べさせてもらうわ!!!一体何故、伝説の
ポケモンのルカリオを2体持っているのかと、それが嘘ではないか
ということ、調べさせてもらうわ.....で、部下!調べて!』

ピコピコ!.....! パコパコ ポチポチ

マリア『まだなの???』

部下『はい、わかりました、これを見てください!ナオさんのポ
ケモンは、ルカリオ×2・ミュウツー・エンティ・ファイヤー・グ
レイシア・などなどです!などなどのところは、不明ですが、ルカ
リオが2体いるということは、本当のようです』

ほーらね！……言ったとおりでしょ！……！

マリア『そうだったの、疑ってごめんなさいね！……！』

ナオ『あああああああ~~~~~』

！?!?!?!?!?!?!?

ナオ……あいつら、何か、変だぞ！……！

それは、知っているだが………まあ、一応、仲間に見せかけとけばいいんじゃないの

それもそうだが………なああ

ドッカー~~~~~ン

マリア『何？この攻撃は』

部下『ダークライによる、攻撃だと思われます！……！』

マリア『確認して！……！ナオ！……！明日という日を楽しみにしているわ！……！じゃああね！……！』

とって、マリアその他の部下は、ナオの家を出て行った

ナオ『ミサト！もういいわよ！……！』

『ミサト』で、明日決行するんでしょ？

うなずく……

ナオ『ミサト……！今日のうちに、お母さん助けるわよ……！』

ミサト『うん……！グレイシア！貸してね……！』

ロケット団……

ウィーン

ナオ『私、ミサトと申します』

ミサト『私、ナオミと申します！』

受付『何の御用でしょうか？』

……

ナオ『ロケット団体験ツアーに来たんですけど……場所がわからなくて』

つてか、そんなツアーあること自体知らない……

受付『まあ……！』体験ツアー』でしたら、約1時間前に終了しておりますが』

……

ミサト『お姉ちゃん本当？いやだよ……せっかくこのために、

ミクモタウンから来たのに……!!』

ナオ『ナオミ……!しょうがないわ……!帰りましょう!』

受付『ミクモから来たのですか?ちょっとお待ちください!』

プルルルルル……

(~~~~~)

(~~~~~) 受付

(~~~~~)

(~~~~~)

~~~~~

(~~~~~) 受付

受付『どうぞ、特別に、許可を取りました!……!』

案内『よろしく、僕が、案内させていただきます』

何か、弱そう……

で、エレベーターに乗った……

ルカリオどくどく

ナオ『ミサ……!……!口の鼻つまんで……!……!』



かかとおとし

ナオ『ミサト大丈夫ね!!!!!!!!!!』

つて、ここが、上官室

ナオ『上官なんだね!!!!!!あなたが.....』

ミサト『マリア.....ウインヌ.....』

ギンガ団ではなかったの???

マリア『よく分かったわね.....ナオどうして分かったか、この私に、おしえてくれるかしら?』

.....

ナオ『ギンガ団の受付係のひとに聞いたのさ!!!!!!』マリア・ウインヌ『という』上官『いますかってね!そしたら、『いませんけど、どうしましたか』とかえってきたのよ!!!!!!そして、よく考えたら、ロケット団の上官という事が分かったんだよ!』

ミサト『ズバリそうなのですか???』

.....

ナオ『ミサンガそうなんだよ』

ミサンガって.....おいおいおいおい!!!!!!

ガチャと扉が開く音がするそう、ゆっくりと

?? 『ロケット団!! お前を倒す!! !! 覚悟しろ』

.....

ナオ 『あ、あなたは、このコトブキシティのある一部の空間がゆがんでいて、そこから、出てきた、仮面ライダーなんかかっていう人!』

W 『仮面ライダーWだ、さあ、マリア・ウィンヌ! お前の罪を数えろ!』

W・W・W・W・ダブル

マリア 『よくここがわかったはね!』

W (左 翔太郎) 『あたり前ですよ!! !! その2人についてくたんだもん!』

マリア 『部下達!! !! 殺しても良いから、懲らしめてやりなさい』

!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!

ナオ 『仮面ライダーさんは、そこにいて!! !! ルカリオ!! !!  
! 『はどうだん』 !! !! !!』

ドッカーン

部下2名ほど死亡

原因：反撃したため、はどうだんに直接あたり、死亡

W（翔太郎）『そんなこといわれたら、こっちの体もだまっでは、  
いられないぜ』

W<sup>フィリップ</sup>『翔太郎は、少しは、暴言はくのやめたらどうだい???印象  
がわるくなるとおもっけど』

W（翔太郎）『静かにしろ!!!フィリップ!!!』

.....

ナオ『ふう!!!行きます!!!マリアにおもいきり』

かかとおとし

バシーーーーー

マリア『いった||||||||||』

W（翔太郎）『眠ってる!!!』

バシッ!!!!!!（ハリセンで叩いた音）

収まった



目的が全く分かりませんね!!! そんなところはおいて・・・

ナオ「フィリップさん!? たちは、ここに来た理由は何なんですか!?!」

フィリップ「翔太郎! 言って! 僕は言うのは苦手だから」

・・・そんなことで、翔太郎に任せるほうがおかしい気がする

翔太郎「あのな! 俺たちの世界つまり、仮面ライダーwの世界の昔話には、「伝説のポケモンレンジャーナオが、この世界を救うであろう」と書かれています・・・いまwの世界がピンチなんですど・・・」

ご立派な説明でした・・・翔太郎さん!!

・・・!!!!!!

フィリップ「そのポケモンレンジャーさんを探しに、それにロケット団が暴れているからその式をしている上官を懲らしめに来た」

・・・

ナオ「wの世界でも、大変な事があつたのですか!?!」

と疑問になっている・・・

翔太郎「そういえば、君の名前、「ナオ」っていったよね! もし

かしてポケモンレンジャーだったりして！」

あたりです……！翔太郎さん……！みごとです……

フィリップ「あれは何だ!？」

!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?

?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!?

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8153p/>

---

ポケモンレンジャ～×仮面ライダーVS悪党 ～みんなの戦い～

2011年10月7日23時43分発行